

未来の共創に向けて

かつてユーラシアの国々とシルクロードでつながり、国際色豊かな文化が花開いた奈良に、国立の大学院大学として1991年に設置された奈良先端大には、国内外から多様な人材が集い、科学技術の基盤を成す最先端の研究の推進と高度な専門性を持った人材の養成をとおり、文化の創造と社会の発展に貢献してきました。

奈良先端大が、学部を置かない独立大学院という先導的な「実験大学」として設置された背景には、科学技術の急速な進展に対応できる柔軟な組織編成を可能にするとともに、高等教育における学生の流動性を高め、我が国の教育研究を活性化する狙いがありました。

今年、奈良先端大は創立30周年を迎えます。先端科学技術分野における卓越した研究、従来の大学院像に縛られない教育改革、そして高度な専門性を持った優れた人材の継続的な輩出というこれまでの成果は、奈良先端大が大学院大学という形態の機能性と可能性を実証する実験大学としての当初の役割を果たしたことを示しています。

次の30年に向けて、奈良先端大は「共創」をキーワードに新たな大学院像の創出に挑戦します。2018年度から全学を単一の研究科とする1研究科体制に移行し、その準備は整っています。教職員・学生が課題やアイデアを共有し、共に議論し、協働によって本学のミッションを実現するキャンパスコミュニティを醸成していきます。さらに、本

学の共創の輪を国内はもちろん、グローバルに拡大することで、科学技術の進歩と社会の未来に寄与する、より大きな力を生み出すことを目指します。

このNAIST 2.0とも呼ぶべき新たなフェーズを始動するにあたり、奈良先端大が目指すべきところ、重点的・戦略的に取り組むべきところを取りまとめ、本ビジョンとして共有することを「共創」の第一歩とします。これより構成員の一人ひとりが、挑戦の証である失敗を恐れることなく、新しい大学院大学像の創出に向けて歩みを進めます。

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学長



塩崎 一裕



「学長ビジョン2030」について

2030年を見据えた奈良先端大の方向性である4つの「ビジョン」、ビジョンへの到達のための中長期の目標である16の「目標」、ビジョンや目標を達成するための主要な施策や取組である16の「戦略」からなります。





ビジョン
1

最先端研究の場で先導的人材を育成する大学院大学の新たな展開

| | |
|-------------|---|
| 目標 1 | 教員、学生、研究者が担う学術研究の卓越性と多様性の強化 |
| 戦略 1 | 魅力的な研究環境の整備を進めることで、奈良先端大の教員・学生・研究者のそれぞれが取り組む多様な学術研究を活性化し、その卓越性を高めるとともに、優れた人材を引きつけ、研究大学院としての存在感を高めます。 |
| 目標 2 | 奈良先端大の強みを活かした新たな課題解決型融合研究分野の共創 |
| 戦略 2 | 奈良先端大が世界を先導する分野をInstitutional Research (IR)によって評価しながら、それらを軸とする課題解決型融合研究を創出します。学問分野の枠組にとらわれず、社会科学的視点も取り入れた新たな研究文化を創出します。 |
| 目標 3 | 異分野共創によって世界的課題に挑戦できるイノベーション人材・リーダー人材の育成 |
| 戦略 3 | 異なった専門分野の学生や研究者が共に取り組む融合研究を推進することで、SDGsをはじめとする世界的な課題の解決に分野・文化を超えた共創で取り組む力を育み、多様な視点で次世代の価値を創造する先導的人材を育成します。 |
| 目標 4 | 国内外の大学や研究機関との共創による教育研究の高度化 |
| 戦略 4 | 奈良先端大と異なる強みや特色を持つ国内外の教育研究機関と連携し、そのネットワークを活用した教育・研究資源の相互利用を促進することで、国際水準の大学院教育と世界を先導する研究を推進します。 |

ビジョン
2

新たな価値を共創する キャンパスコミュニティの醸成

| | |
|-------------|---|
| 目標 5 | 多彩な発想や変化への柔軟性をもたらす教職員・学生の多様性・国際性の向上 |
| 戦略 5 | 教職員や学生の多様性と国際性を向上させる人事・学生募集戦略を推進するとともに、奈良先端大の多様な構成員が安心して学び、働き、力を発揮できるキャンパス環境を整備します。 |
| 目標 6 | 広く学内外から専門的知見やアイデアを集約する体制の強化 |
| 戦略 6 | 奈良先端大の教育研究や運営・経営に関する多様なアイデアや知見を学内外から集約し、議論する仕組みを整備し、大学運営とキャンパスコミュニティを活性化します。 |
| 目標 7 | 自己実現の場としてのキャンパスへの帰属意識を高める学内広報の推進 |
| 戦略 7 | 奈良先端大で学び、働くことに誇りや喜びを感じられるよう、優れた教育研究の環境や成果を、教職員や学生、卒業生などと横断的に共有することで、「足元からの大学ブランディング」を推進します。 |
| 目標 8 | 次世代の大学リーダーシップ育成を目指した教職員の運営／経営参画の推進 |
| 戦略 8 | 大学運営・法人経営の課題に取り組むプロジェクトチームに多様な教職員の参画を求め、また、学内の人材登用を柔軟かつ積極的に進めることで、奈良先端大の将来を担う人材を見出し、育成します。 |





ビジョン
3 社会との共創の輪の拡大

| | |
|--------------|--|
| 目標 9 | 社会的課題の解決に向けた産学連携とイノベーションの創出 |
| 戦略 9 | 奈良先端大の研究シーズや人的資源、設備を可視化して、地域や企業との新たな協働ネットワークを形成し、SDGsやカーボンニュートラルなどの課題解決につながるイノベーションの創出を推進します。 |
| 目標 10 | 社会の変化と進化を見据えた教育プログラムの継続的な整備 |
| 戦略 10 | 企業等とのコミュニケーションを活性化して社会が求める人材像の変化をリアルタイムに捉え、社会との共創によって教育プログラムやキャリア支援プログラムを変革しつづけます。 |
| 目標 11 | 学外のステークホルダーとの双方向コミュニケーションの活性化 |
| 戦略 11 | 国内外、産官学さらに個人、法人など、奈良先端大の多様なステークホルダーそれぞれとの効果的な双方向コミュニケーションを確立して、教育研究や大学運営に対するインプットや支援を集約する新たな協働のかたちを創ります。 |
| 目標 12 | 戦略的なブランディングによる研究力/教育力/社会貢献の可視性の向上 |
| 戦略 12 | 奈良先端大の研究、教育及び社会貢献の魅力をIRによって分析し、国内外のステークホルダーに向けてそれぞれの特性に応じた情報発信を行うことで、奈良先端大のブランド化を進めます。 |

ビジョン
4 大学運営体制の高度化による共創環境の整備

| | |
|--------------|--|
| 目標 13 | 学内資源の有効活用と配分の全学的なマネジメント |
| 戦略 13 | 奈良先端大の人的資源、資金、施設・設備など多様な資源を可視化し、全学で計画的かつ柔軟に配分、活用することで、大学としての機能強化を効率的・効果的に進めます。 |
| 目標 14 | 財源の多元化による財務基盤の安定化と教育研究環境整備への積極的な投資 |
| 戦略 14 | 積極的な競争的資金の獲得に加え、産業界や社会との連携を推進することで財源を多元化するとともに、資金獲得力の基盤となる教育研究環境の整備に積極的に投資することで、財務体質強化の好循環を生み出します。 |
| 目標 15 | 大学・社会への多様な貢献を考慮した人事評価と人材育成 |
| 戦略 15 | 大学や社会への貢献を多面的に評価する仕組みをつくることで、教職員それぞれが自らの強みを活かして活躍する意欲を高め、構成員と奈良先端大が共に成長する環境を創り出します。 |
| 目標 16 | デジタルキャンパスの推進による大学機能の効率化と強靱化 |
| 戦略 16 | 奈良先端大の教育・研究・運営業務のデジタル化を推進するためのマスタープランを策定してサイバー環境を整備することで、大学機能を効率化、強靱化し、物理的な条件に限定されない次世代の大学像を創出します。 |

